

【米国】 Case Study 1 バリアフリー住宅、技術研究及び実証補助プログラム



➔ バリアフリー住宅の推進に向けた技術開発や実証研究

- 米国住宅都市開発省 (HUD) では、手ごろな価格で見ても美しいバリアフリー住宅を設計・建設するための革新的な方法に関する研究を支援。
- 2017年度に採択され現在継続中の3つの研究を紹介。

● 背景

- 米国では、成人の4人に1人が、日常生活に支障をもたらす障害を抱えている
- アメリカン・ハウジング・サーベイによると、1/3の住宅は改修すればバリアフリーが実現可能であるが、車椅子が利用できるレベルの住宅は0.15%しかない

● 採択された研究の概要

手ごろな価格のバリアフリータウンハウスの設計 【オーバーン大学】

【新築向け】

- 何らかの障害を有する方々の住宅に取り入れられる新しい住宅設計案を考案することが目標
- 国民及び設計/建築業界を啓発するためのツールと戦略を策定

タウンハウス及び集合住宅を改良するバリアフリー設計及び試作住宅の実験・評価 【ホームイノベーション研究所】

【追加的な改修】

- バリアフリー化されていない典型的な構成の建物に所定のバリアフリーソリューションを導入し、設計結果の分析、費用対効果、実験全体の評価等を行う

再可視化プロジェクト 【フロリダ大学】

【作り替える改修】

- レイアウトや設備を作り替えて、様々な障害を持つエンドユーザーの下でテストしてもらい、良い結果が出た設計図と備品について費用分析

[進捗状況等]

- 3つの研究チームは全て、文献レビューとフォーカスグループのインタビューを終了
- フォーカスグループでは、自宅をより住みやすくするための問題点とその解決策が提示された
- 最終報告書は2020年9月に提出される